

## 令和4年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科:(理科)科目:(物理基礎) 対象:(第2学年1組～5組)

科目担当者:1～5組 川尻

教科・科目の 指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。</li> <li>日常生活や社会と関連付けながら、物理現象への関心を高める。</li> <li>知的好奇心を持ち、科学的に探究する能力と態度を養う。</li> </ul>
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>1 日常生活で見られる現象を、科学的な見地から分析・探求する意欲が少ない。これは、基礎的な学力が不足していることから、日常的な現象を科学的に捉えることが出来ないためであると考えられる。しかし、視覚的な教材や実験には強い興味を示す生徒が多く、原理を理解すれば日常的な現象を科学的に捉えることができるようになる。</p> <p>2 四則演算を正しく行えない生徒が多い。また、グラフや比の概念を理解していない生徒も少なくない。公式に数値を代入して計算することも苦手である。</p>	<p>1 生徒の興味・関心や日常的な現象と結びつけた授業を実施する。</p> <p>2 物理現象が起こる原理を理解させることにより、論理的な思考力を養成する。</p> <p>3 視覚的な教材と実験を取り入れ、理解を促進させる。</p> <p>4 授業中、自分の考えや学んだ内容を表現する機会をつくる。</p> <p>5 四則演算を正確に行えるように反復練習をする。</p> <p>6 グラフの書き方や読み方を指導する。</p>	<p>1 ICT機器や実験器具を利用した視覚的な教材の研究を実施する。</p> <p>2 物理現象をグラフで表現できるよう複数回指導する。</p> <p>3 計算練習の中で数値の大小関係をイメージさせる発問をする。</p> <p>4 読解力を養成するために、基礎的な問題を数多く解かせる。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			